

大阪精神保健福祉士協会における スーパービジョンへの取り組み ～スーパービジョンこれから普及プロジェクト第2報～

- 富澤 宏輔(大阪人間科学大学)
- 森 克彦(浅香山病院 アンダンテ就労ステーション)
- 金 文美(大阪保健福祉専門学校)
- 上田 幸輝(浅香山病院 サポートハウスアンダンテ)
- 辻本 直子(有限会社オラシオン)
- 西川 孝(東成精神障害者を支える会 サラダ倶楽部)

当協会としての取り組み(2013年度総会)

(1)SVRの養成

日本精神保健福祉士協会認定SVRや各教育機関等の研究者の協力の下、SVの基礎講座を開催し、SVRを養成する。

(2)SV・ビューローの設置

当協会内にビューローを設置して、契約書式、費用等に関する基本的な仕組みを作る。養成したSVRに登録していただき、SVを希望する会員に対し情報提供を行って、SVを開始できるよう支援を行う。

実施計画

- 2013・2014年度
パイロット事業(個別SV)の実践とモニタリング
- 2015年度
パイロット版養成講座の検討・実施
- 2016年度
養成講座の実施、ビューローの設置

現在の状況(5月25日時点)

- 登録SVR 16名(経験年数7~26年)
- SVE希望者 9名(募集開始からの申込者数)
 - うち マッチング終了済は7組。
契約済みは3組。
他のペアも契約に向けて進行中。
- 追加募集中

これプロの経過(2015年度)

2015年

2016年

5月

6月

7月

9月

11月

12月

1月

2月

3月

マッチング結果通知(4月)

マッチング・これプロ実行委員会

スーパーバイザー募集開始

スーパーバイザー登録開始

これプロ実行委員会(1回)

スーパーバイザー養成講座

これプロ実行委員会(1回)

これプロ実行委員会(1回)

これプロ実行委員会(1回)

福島大会発表

担当理事打ち合わせ(1回)

担当理事打ち合わせ(1回)

SV研修(3月)

(講義とミニ座談会/理論的枠組みと実践的なSVの構造に関するもの)

事業運営の特徴

- **これプロ実行委員会**の組織化

前年度のパイロット事業（**8組16人のSV実践**を実施）において、参加者から寄せられた実践したうえでの率直な意見が、本事業を推進している。

引き続き事業運営に協力いただける**SVR**（前年に作成していたメーリングリストで呼びかけ）に加え、**SVE**として参加していた方にも参加を呼びかけた。

結果として5回の実行委員会に10名が参加。そのうち、3名が養成講座で実践報告を実施。

事業運営の特徴(続き)

パイロット事業での実践経験が検討に及ぼした影響

- 多様なペアでの実践・・・同性のペア、異性のペア、SVRよりSVEの経験数が長いペア etc.
- 実践上の工夫・・・AAのスポンサー・スポンシー関係、使用したツール etc.
- 費用の取扱い・・・費用をもらっているのか、場所を借りる費用に充てる etc.

2015年度第1回スーパーバイザー養成講座

(2015年11月28日実施)

AM

【講義1】 SVの基礎理論 (80分)

【講義2】 契約等実施準備の説明 (30分)

PM

【講義3】 SVの実践論 (90分)

【演習】 グループ演習・全体でシェア (90分)

【修了式】

約300分(5時間)の
1日講座

【講義1】SVの基礎理論

- なぜSVが必要か
ソーシャルワークにおける
意義
- SVの目的・機能・構造



【講義2】契約等実施準備の説明

- 契約期間はだいたい半年(以上)を目処に両者で決定する。もしくは更新する。
- 頻度は、月1回くらい。
- 協会事務所使用については、現在調整中である。
- バイザーにとってリラックスできる場所がいい。
- 方法は、個別SV。今回はグループSVは実施しない。
- 契約料(1回の値段)は、普及を目的とすること、養成講座が初回であることから、2,000円に決定。



【講義3】SVの実践論



- コーディネーターから講義の目的を説明、2014年度の報告を紹介する(10分)。
- コーディネーターから話題提供者へ事前にインタビューを実施。
- 話題提供(1人15~20分、全体3人で60~70分)
どんな**枠組み**で実施したのか。**SVの構造**についての話
はじめましての部分(波長合わせ)はどのようにしたのか
経過の中で**二人の関係**はどうだったのか、どう変化したのか
こんなときどうするの、どうしたのという話。
SVを通してPSW同士の出会いがこんなふうに来たという話、
出会えてうれしかったと思えるSVであったと思ってもらえたら。
- 残りの20分で質疑応答。
- 最後にSVの目的を再確認して終了。

【演習】グループ演習・全体でシェア

- 進行と内容

- ① 自己紹介

- ② 波長合わせのロールプレイを3人グループでバイザー・バイジー・観察者（4人の場合はもう一人観察者）

- ③ 受講動機、SVについてどのような考えをもっているか、SVの視点、SVの動機付け、必要性などを意見交換

- ④ 全体でシェア

- 「**背中を押す**」ことを目的とする。

- 講座の内容や実際に聞いた感想を述べ合う。



講座修了者(26名)

経験年数6~33年

女性8、男性18

	性別	経験	所属		性別	経験	所属
1	男性	6	精神科病院	14	女性	12	地域活動支援センター
2	男性	7	精神科病院	15	女性	13	教育機関
3	男性	8	精神科病院	16	男性	14	教育機関
4	男性	9	就労支援事業所	17	男性	15	基幹相談支援センター
5	女性	10	精神科診療所	18	女性	17	障害福祉サービス事業所
6	男性	10	精神科診療所	19	男性	17.5	就業・生活支援センター
7	女性	10	精神科病院	20	女性	20	相談支援事業所
8	男性	10	精神科病院	21	男性	21	保護観察所
9	男性	10	精神科病院	22	男性	21	障害福祉サービス事業所
10	男性	10	就労支援事業所	23	男性	23	障害福祉サービス事業所
11	男性	11	地域活動支援センター	24	女性	26	教育機関
12	男性	12	精神科デイケア	25	男性	26	就労支援事業所
13	女性	12	就労支援事業所	26	男性	33	精神科病院

修了式



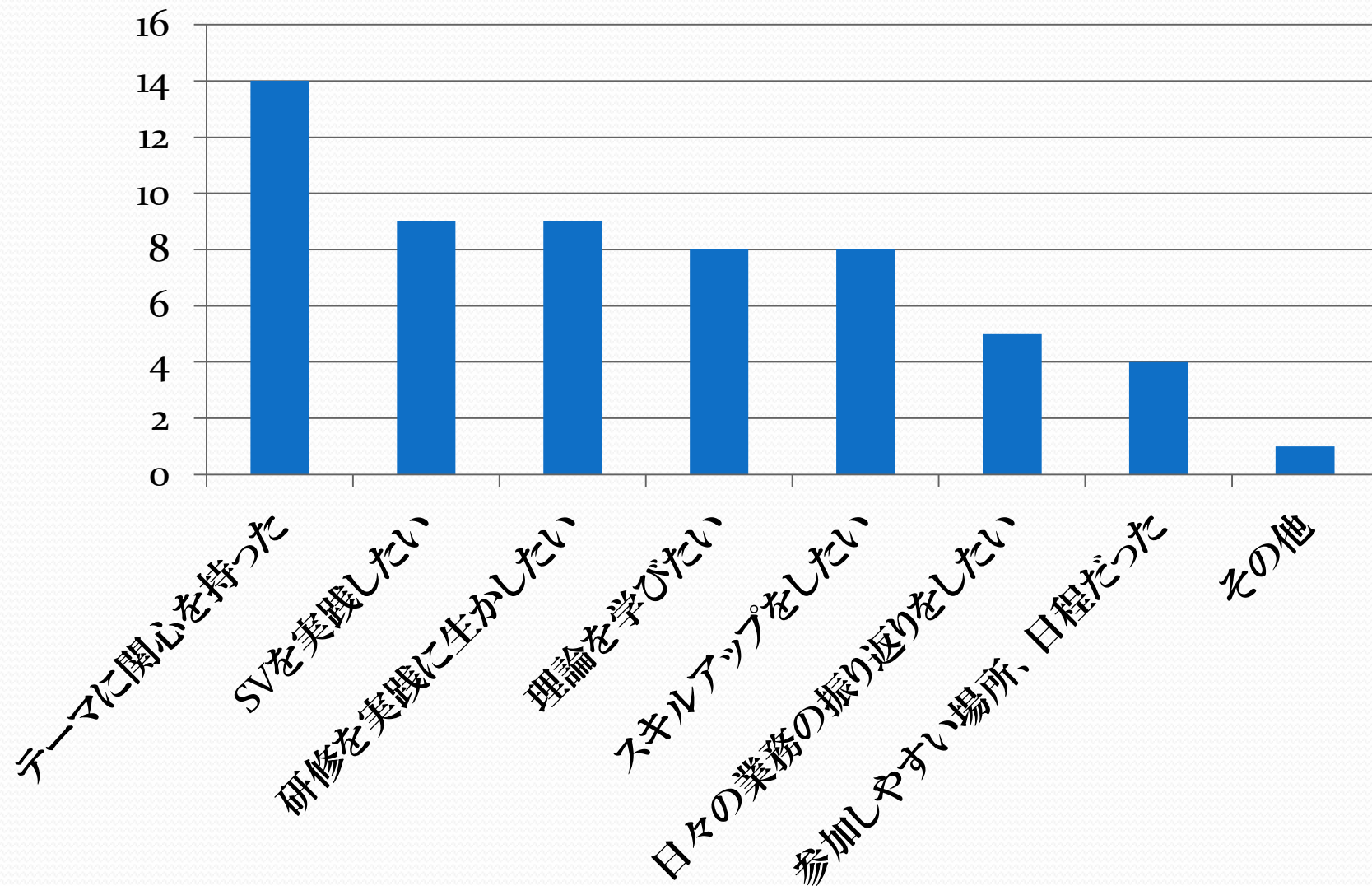
大阪精神保健福祉士協会 平会長(右) より 修了証の授与



講座参加者の感想(アンケート結果)

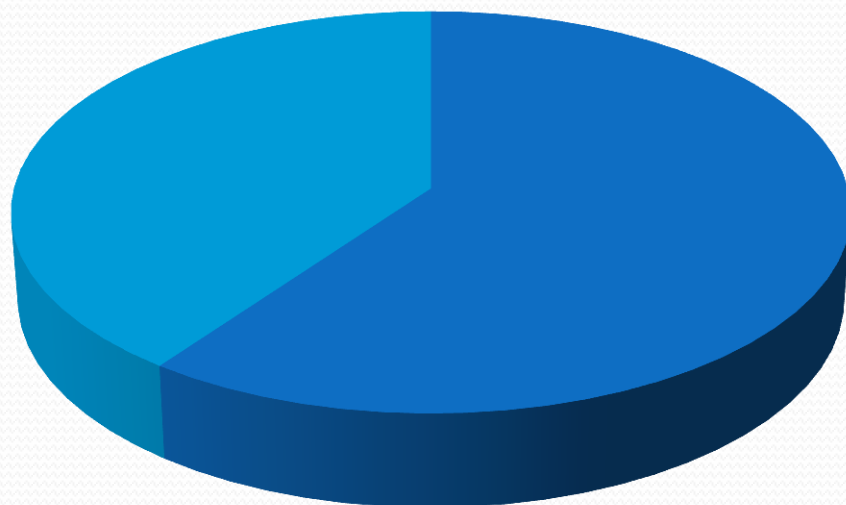
参加理由

複数回答



満足度

n=20



■ よかった(12人)

■ とてもよかった(8人)

内容への意見・感想①

- 実践をもとに、**枠組み**について話が聞けてわかりやすかった。
- **実践論**で「これプロ」にかかわっているSVR、SVEの話が聞けてよかった。
- 理論が**実践論**を経て、深まった。
- 理論から**実践報告**、そして自分が感じた事や他の参加者の方の意見なども聞けて、とても勉強になった。
- 講義、グループワークがあり、よかった。
- SVRで参加するのは不安。今の力量ではどうか?!と。まだ、**不安はぬぐえないが、それも含めてディスカッションの場があり、よかった。**
- グループワークで、SVに取り組む**不安を共有できて、安心できた。**

内容への意見・感想②

- SVについて学ぶ機会そのものがほとんどないため、よい機会を得た。また、SVの敷居の高さも少しとれたように思う。
- SVRとしての気負いが軽くなった。
- 今まできちんとした形でSVについて考えたこと、体験したことがそもそもあまりなかったのもので、今回のようにきちんとした形で教えていただいたことは貴重な時間でした。
- グループワークで意見を交わすことで多くの気づきを得た。
- SVのしくみがわかった。
- 波長合わせ、マッチングの大切さがわかった。
- 職場内のSVEと職場外のSVEの違いについて、気づきがありました。OJTと違うことを実感した。

内容への意見・感想③

- 自分の成長にもつながると思う。
- 職場では10年目で最年長のPSWとなっているが、まだまだ自分は井の中の蛙で、のびしろがいっぱいあることがわかった。
- 職場ではなかなかソーシャルワークについて語る事がないので刺激になった。
- グループワークの時間(ロールプレイを含む)がもう少しあればよかった。時間が足りない。もっと勉強したかった。
- 演習の内容、全体会での深め方が課題。大Pとしての考え方を決めないと。

今後望む研修

- **フォロー研修**、SVRの交流会、情報交換会、SVRカフェ
- **グループスーパービジョン**のやりかた。グループに対するSVRをすることが多く、悩んでいる。
- スーパービジョンの継続的な勉強会
- SVとOJTを混同している人もいるので、**SVの説明や必要性を伝える**ものがあれば。
- バイジー向けのSV研修があるとよい。
- **人材育成**について
- 自分自身のメンタルヘルス力を高めるような工夫や取り組みを普段みなさんがどうされているのか、共有できるような研修等があればありがたい。

これプロについて

- SVと聞くと、なんとなくかまえていたが、今回の研修に出て、やってみようという気持ちになった。とりあえず“やってみる”“動いてみる”ことがPSWにとって大切な事だと思う。
- 必要としている人のハブとなり、活動が広がっていくとよい。
- 広がる時は楽しい。ある程度固まったり、年数が経った後、どう継続するかがポイント。
- 根づいてほしい。是非普及してもらえれば。
- 必要なことなので、これからSVが広がっていけば。
- 定期的にあつたほうがいい。今後も参加していきたい。
- あらためていろいろな立場で、いろいろな場所で共に働く方がいることを実感する中で、協会でこういった取り組みがあることを心強く感じた。



考察：実行委員会として養成講座のまとめ

- 講義に関しては、概論が中心であった。**実践論**の話の組み立て方も良かった。
- 講義1について前半部分講演になっている。何を伝え、学んでもらうのかというのは精査したほうがいい。
- **不安は残るが、取り組んでいきたい**という意見もあった、かかわっていく中で検討していきたいという意見であった。
- (実践論で) **自分も不安だったが、自分がどう取り組んだのかという話**であったが、みなさんのレスポンスも良かった。
- 発表の中で、「**事実を返す**」という話がよかった。
- 個別のSVと機関のSVの話だったが、バリエーション豊かな内容で良かった。
- **実践論**で実際の3者の話がとてもよかった。実践論の形は続けていけたらいい。
- **実践論**すごくよかった。実践の重要性とその経験をどのように掘り起こしていくのか重要だと思う。

- グループでは、**必要を感じる**ことと、**自分が学びたい**という話が出た。
- 演習は、グループの狙い・進め方をどう定めるのか。検討が必要。ただ、SVに関して経験を重ねたPSWがいろんな角度でSVについて共有できた機会は有意義であった。
- グループワークに関して、最初のウォーミングアップもあわただしかったかも。
- グループの分け方も工夫が必要(?)
- 演習は盛り上がったが、盛り上がりっぱなし(?)

- **人材育成**に役立てたいという話が多かった。**自分自身のスキルアップ**も含めて、上を目指すことができる。
- 自分のところの**人材育成**に役にたてたいという意見も多かった。職場のグループスーパービジョンに持ち帰りたいという意見も。



今後の事業展開

- 運営体制(実行委員会)の基盤強化

養成講座を検討する過程において、パイロット事業でSVRおよびSVE経験者が参画し、実行委員会を組織した。

その結果、事業経験者が語った実践報告は、参加者に SV 実践の重要性を最も伝えるものとなった。

本事業は、大阪精神保健福祉士協会の研修制度の専門研修の1つであることから、2016年度より実行委員会メンバーを協会の研修協力員として位置づけている。

連絡体制として実行委員会でメーリングリスト(ML)を作成している。なお、登録SVR専用のMLも作成し、連絡体制を構築している。

今後に向けてさらに基盤体制の充実をはかる。

- 次回養成講座の実施に向けて

- ① 実践論(実践報告)を聞くことの重要性
- ② 不安の共有と、ディスカッションの場をもつ
- ③ (SVの)必要性を感じ、学びたい、スキルアップにつながる
- ④ 定期的な開催
- ⑤ 人材育成(自らのスキルアップ、GSV)

- SV・ビューローの設置に向けて
フォロー研修、SVRの交流会、情報交換会、SVRカフェ
(スーパービジョンの継続的な勉強会、GSV等)

⇒実施形態の具体的検討(2016年度)

● SVを通じた職能団体としての使命、資質向上のために

①(協会全体向け)SVの説明や必要性を伝える場。

バイザー向けのSV研修

②スーパービジョンの継続的な勉強会

ご清聴ありがとうございました。

一般社団法人 大阪精神保健福祉士協会
スーパービジョンこれから普及プロジェクト

詳しくは、
協会HPの「これプロ」ページへ

<http://www.osaka-psw.org/これプロ-sv/>

* 本発表に用いた人物写真の使用については、本人の承諾を得ています。